

令和元(2019)年「宝石山正覚寺報」5月号

ご案内

お聴聞は、如来様の促しに遇いお念仏しつつ
終にお喚び声に遇わせて戴く大切の営みです。

皆様どうぞご縁におあい下さいませ。

仏壮お聴聞の会 5月5日(日)20時～。

仏教壮年会恒例となったお聴聞の会です。
皆様賑やかにご縁にお会い下さい。

滋賀組仏婦例会 5月16日(木)19時半～

月に一度、如来様のお育てに合う大切な機会
です。皆様賑やかにご参り下さい。

降誕会(ごうたんえ) 5月19日(日)13時半～

降誕会は、三世代が仏縁に与る伝統行事で
す。御世話戴く仏壮の皆様にはご苦労様です。
どうぞ宜しくお願い致します。

元号で垣間見る浄土真宗のみ教え

今から30年前「平成」に改元されたとき、あ
る和上様が大変お慶びになりました。

なぜなら、「平成」は、浄土真宗のご法義「平
生業成(へいぜいごうじょう)」に通じたからです。

私達の浄土往生の業因は、本願成就で仕上
げられたお名号を頂戴することにより、臨終を
待つまでもなく、「平生」に他力の信心を得たそ
のとき定まることだったからです。

問題は、では、その信心はいつどのようにし
て頂戴するのか。皆さん、お考えになったこと
がありますか。天岸先生がおっしゃいました。
「浄土真宗の僧侶、門信徒は、信心一つでお救
いに与るといっても、そのうち、そんなことは
あまり問題にはならず、いつのまにやら自分
は信心を頂戴したことにしてしまっている」と、

果たしてそれでよかったですでしょうか。

新たな元号は「令和」です。その意味は、国民
一人一人が豊かに展開し深めて行って戴きた

いと総理はおっしゃいました。

令の令は「麗しい」(構造的に整っている)と
いう形容詞で捉えることもできれば名詞にも
動詞にも助動詞「しむ」にもなります。「和」の代
表格は、和みですね。形容詞と「和」の名詞を組
み合わせると「麗しき和(なごみ)」となります。

助動詞として捉えるときはどう読むのでしょ
う。「和をもって尊しとなす」の「和」と組み合わ
せれば「和せしめる」または「和たらしめる」と
読むことになると云われています。

「令」は、「命令」の「令」でしたよね。そうす
ると私達はどこかで何かを聞いていませんか。

親鸞聖人は「南無阿弥陀仏」のお六字を釈し
て「南無」とは「帰命」の「帰」と「命」の語彙を
つづさに明らかになさり、「帰命」は、「本願招喚
の勅命」、如来様が本願のお心から喚び続けて
いて下さるお喚び声だと仰せになりました。

「勅命」とは天皇が配下の機関に直接仰せに
なる命令形式です。ここから、本願招喚の勅命
とは、如来様が衆生一人一人に直々に声になっ
て仰せになるご命令になるのであります。

その「勅命」を「勅命」と受けとめるとき、私
は、信心を賜り、浄土往生が定まるのでした。

「諸々の衆生をして功德成就せ令(しむ)の
大經の御文は信心獲得章に引かれています。

如来様は、本願力によって私をお念仏をする
身にまでお育てに与ら令(し)め(使役)、私は、称
えれば直ちに聞こえて下さるお喚び声に喚び
覚まされ、やがて私の様なお粗末な者を目当
てとして下さったことよとしみじみ顧みられず
にはおれず(謙讓)、「まことよのうまことまこと
(「尊ぶ」意の広島弁)」と、本願の名号の功德を「讃
仰」せ令(し)められるのであります。合掌。